

足利風 -ashikaga-fu

2017
8月号
Vol. 51



画：中山 キッコ

足利市民活動センター

開館時間：平日 午前10時～午後7時

〒326-0051

栃木県足利市

大橋町1丁目2006-3

TEL 0284(44)7311

FAX 0284(44)7312

mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- *特集！
- *TOPICS
- *私のボランティアことはじめ
- *サークル紹介
- *インフォメーション
- *センターからのご案内

* ボランティアは生き方なんだ！ *

かつて、足利の珈琲屋の話をラジオの番組でしてくれたのも永六輔さんだった。その永六輔さんも亡くなった。「ぼらんていあ」について永六輔さんはこのように書いている～「生きてい
るのではない。生かされているんだ」父の口癖だった。「二本ある手のどちらかは誰かのため
に使えるように…」これも父の口癖。ボランティアというのは“生き方”なんだということも教え
られた。ボランティアなんていう言葉じゃなくて、“心遣い”であり“優しさ”であった、とも。

その永六輔さんが、“僕は、これを一番書きたかった”と言って「職人」という本を書いている。
僕は職人というのは職業じゃなくて“生き方”だと思っている…というのがホンネだと思う。

～メシ食う暇があったり、ウンコする暇があったら、忙しいなんて言うもんじゃねえ。



～教えるということは教わることです。～職業に
貴賤はないと思うけど、生き方には貴賤がありま
すねえ。～人間、“出世したか” “しないか”では
ありません。“いやしいか” “いやしくないか”です
ね。～子どもは親の言うとおりに育つものじゃな
い。親のするとおりに育つんだ。～食べて美味し
いものは簡単につくれます。喰って旨いものとな
ると年季がかかります。～百姓ってのは、百種類

の作物をつくれる職人ってことなんだってさ。～着物を着ることは誰でもできます。着物を着こ
なすのは、誰でもというわけにはいきませんね。～おまえは非常識なんていうもんじゃない。
おまえは無常識！おまえは何もないの！～褒められたい、認められたい、そう思い始めたら、
仕事がどこか嘘になります。

…肝に銘じる台詞の数々がここには散りばめられている。永さんの感性に改めて脱帽…で
ある。

(M生)

* NPO マネジメント講座好評！ *

内容のある講座として定評のある NPO マネジメント講座が今年も始まりました。4月20日
(木)の1回目は、全国的に人気の永島 徹(NPO 法人風の詩理事長)さんに豊富な事例を駆
使して NPO 運営のツボを教示していただきました。参加者も感銘を受けたようです。5月18
日(木)・6月15日(木)と内容の濃い講座が続きました。これからも、ボランティア・NPO の質
的向上のための講座を企画・運営します。ご参加を！

* 傾聴について *

～ 溝添 直哉 ～



今回、傾聴ボランティアのすすめということで傾聴について、研修をさせていただきました。

傾聴とは アクティブ・リスニングと言われるように、積極的に話し手に関わろうとする聴き方であり、「どうしていまここで、この話を自分にしてくれるのだろう」という能動的な、積極的な姿勢で話を聴くことです。

積極的に話し手に関わろうということはどういうことでしょうか。話し手のお話にも、真剣に耳を傾けて聴くこと。そして、聴かせて頂くことを通して、話し手自身を受け止め理解していくことではないでしょうか。

話し手にとって自分の話を、真剣に聴いてくれる人がいるということは、自分の存在を受け止めてくれる。自分の存在が認められたということを感じるのではないのでしょうか。

今回のテーマ「人の話を上手に聴くためには」、つまり「どうして人の話を上手に聴けないのか。」という問いになります。

人の話が自分の中に、しっかりとこないから、人の話が素直に聴けなくなる。それは話し手に問題があるのではなく、聴き手に課題があるのではないのでしょうか。つまり、私達は自分の価値観といった枠組みを通してお話を聴き、理解していく作業を行っています。

今回は自分の枠組み、自己理解について学ぶ研修を行いました。

人の話を上手に聴けない自分のあり方、それを邪魔しているものは何だろうかということを知る機会になったのではないかなと思います。

私自身は、傾聴ボランティアを目指す方には、是非ご自分が話し手として、お話を聴いてもらう体験を持たれることが必大切だと思っています。また、傾聴ボランティアを支える仕組み、一人一人のボランティアに対応した仕組みも必要だと思っています。

* 演劇「PPP45°」*

PPP45° は、足利市民プラザが主催している「足利市民プラザ演劇祭」に 2007 年より、参加し、年1回の演劇上演を主な活動として行っています。

20代～60代まで幅広い年齢層のメンバーが在籍し、その多くが日頃社会人として市内・近郊で勤務しています。

また、プロデュース公演と銘打ち、有志による公演や、プロによる近郊公演への支援も積極的に行っています。

なによりも、良質な演劇を「足利」から発信していくことが一番の活動目的です。

① インフォメーション ①

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。
どうぞ、お気軽にご参加ください。

★8月18日(金) 2:00pm～4:00pm

* 本 : 「おくのほそ道」(松尾芭蕉)

* 案内人: 日下部悲天 さん

* ひとつこと : “「おくのほそ道」は、芭蕉が崇拝する西行の五百回忌にあたる元禄2年(1689年)に、門人の曾良を伴って江戸を発ち、奥州・北陸道を巡った旅行記で、全行程600里・日数150日で東北・北陸を巡って、元禄4年に江戸に帰った。今回は俳人である私悲天が、芭蕉の句に焦点を当て、皆さんと俳句の世界に浸ってみたいと思います。”

★9月15日(金) 2:00pm～4:00pm

* 本 : 「福島泰樹歌集」

* 案内人: 田中佑雲 さん

* ひとつこと : “「短歌絶叫コンサート」で全国を巡り、その感情を込めた力強い声色を多用する朗読パフォーマンスで知られる歌人・福島泰樹さんとはご縁があって旧知の仲であります。東京都台東区下谷の住職を務めながら、多方面にわたる活躍には目を見張るものがあります。今回は福島泰樹の短歌を主に、絶叫コンサートの様子を交えながらのサロンです。”

■会場: 足利市民活動センター ■参加費: 無料

■お問い合わせ・事務局: 足利市民活動センター ☎44-7311

* センターからのご案内 *

☆みんなの広場 ～ 8月・9月のご案内 ～

* 粋な手仕事の狛犬 展 (7月31日～8月17日)

* “陶苦勞”やきもの 展 (8月21日～8月31日)

* 能面の雅び 展 (9月 4日～9月14日)

* 足利・手仕事の極み 展 (9月19日～9月28日)

☆相談室 & 講座のご案内

* 相談室 = 毎月第2・第4水曜 午後2時～4時 ※詳しくは、別紙参照

* 講座 = 毎月1回 午後7時～9時 ※詳しくは、別紙参照

編集後記

子どもの頃からお地蔵さんが好きだった。足利尊氏の母は故郷・丹波綾部の光福寺(現・安国寺)の本尊地蔵菩薩に祈願して尊氏を産んだ。尊氏も地蔵菩薩を尊び、地蔵尊の姿を描くのを日課とした。

尊氏が京都の辻々に地蔵菩薩を安置させたといわれる。

可愛い～お地蔵さんの頭をなでてあげた～いっ!

(カサブランカ)